

第4回セミナー／ワークショップ

「成功する日本人デザイナーの条件」

織研新聞社 編集委員 小笠原 拓郎 氏

■ 内容

欧米と東京のコレクションを30年以上にわたり取材し、数多くのデザイナーの歩みを見つめてきた小笠原氏に、ファッション業界の変化と、世界で活躍する日本人デザイナーに共通する視点や行動について、ナカ氏と対談形式でお話しいただきました。Sacai や SETCHU などの具体的なブランド事例を中心に、独自性を磨くだけでなく、成長の段階を見極め、デザインとビジネスをともに前へ進めることの重要性を学ぶ機会となりました。

【セミナー内容構成】

インディペンデントデザイナーを取り巻く環境の変化

1990年代後半のパリでは、公式・非公式を合わせて数多くのショーが開かれ、世界各地から新しい才能が登場していました。1997年頃からファッションコングロマリットが拡大し、老舗ブランドが若手デザイナーを起用する流れが加速。現在は大手グループの存在感が増し、若い独立系ブランドが世界へ参入するための資金や販路を得にくくなっていると解説されました。

ファッションショーの役割と発信の変化

かつてファッションショーは、メディアによる評価とバイヤーの買い付けを中心に成り立っていました。現在は芸能人やインフルエンサーを招き、SNSで広く拡散するマーケティングの場へと変化しています。発信力が大きな価値を持つ一方で、服の新しさや美しさを問い、批評する機能が弱まる可能性についても語られました。

時代へのカウンターとなる新しさ

マルタン・マルジェラやラフ・シモンズらが、その時代の価値観に対するカウンターとして新しい美しさを提示したように、現代にも既存の流れを揺さぶる表現が求められています。単に奇抜なものではなく、時代の空気を捉え、自分の背景にある音楽やアート、文化などを独自の方法でアウトプットすることが、強いクリエイションにつながると示されました。

Sacai に学ぶ、段階的なブランドの成長

阿部千登勢氏は、自宅で編んだ数点のニットから展示会を始め、小さな取引を積み重ねながらブランドを成長させました。海外での認知を高めた後にパリへ進出し、ランウェイで評価されるためにデザインをより強いものへ転換。既存顧客を支える別ラインを期間限定で設けながら次の段階へ移行するなど、ブランドの現在地を見極め、必要な手を打つ姿勢が紹介されました。

SETCHU に学ぶ、デザインと事業の両輪

桑田悟史氏が手がける SETCHU は、和と洋、平面と立体を現代的に融合した明快なコンセプトを持つブランドです。LVMH プライズ受賞を生産背景や品質の向上につなげ、ショー、香水、他ブランドとの協業へと段階的

に展開。得た資金を次の成長にどう投じるかを考え、服づくりを核にしながら事業全体を論理的に組み立てる力が強みだと語られました。

人を巻き込み、ブランドを前へ進める力

成功するデザイナーには、クリエイションや経営の力に加え、人を惹きつけ、協力者を巻き込むチャームिंगさがあると小笠原氏は指摘します。自分ですべてを担うのではなく、必要な知識や役割を持つ人と出会い、関係を築くことも成長の一部です。何を実現したいのかという核を持ちながら、パートナーや専門家と進むことの大切さが示されました。

「見たことのないありふれたもの」を目指す

ものがあふれる現代において、デザイナーには新しさへのこだわりを持ち続けてほしいと語られました。ドリス・ヴァン・ノッテンの考え方として紹介されたのが、「見たことのないありふれたもの」。リアリティのあるスタンダードを土台にしながら、これまで見たことのない発想を加えること。すぐに正解が見つからなくても、素材や技術、人との出会いを重ね、自分ならではの表現を探し続けることが重要だとまとめられました。

■ 小笠原氏の言葉から ～セミナーハイライト～

① ファッションショーは、マーケティングの場へ

「ファッションウィークが、マーケティングビジネスの場所へ変質している」

芸能人やインフルエンサーを招き、SNS で拡散する仕組みが広がったことで、ショーの役割は大きく変化しました。ブランドにとって効率的な発信手段となる一方、メディアやバイヤーが服そのものを評価し、新しい価値を社会へ伝える従来の役割とのバランスが問われています。

② 今の時代に必要なのは、カウンターとなる美しさ

「今のカウンター的な、新しい美しさを持った人が出てきたら、一気に天下を取れると思う」

マルジェラが当時の金満的な空気に対して新しい価値観を示したように、強い表現は時代との関係から生まれます。現在の主流をなぞるのではなく、社会や業界の空気を見つめ、自分なりの違和感や問いを新しい美しさへ変えることが、次の時代を切り開く力になると語られました。

③ 初期衝動を更新し続ける

「何をインプットして、それをどうアウトプットしていくか」

ラフ・シモンズは、初期には音楽やユースカルチャーを背景に強いメッセージを打ち出し、その後はアートの知識を取り込みながら表現を変化させました。最初の衝動は大きな力になる一方、同じ方法を続けるだけでは受け手に飽きられてしまいます。新しいものを学び、表現へ変換し続ける姿勢が、ブランドの継続につながると解説されました。

④ 成長には、その段階で打つべき手がある

「その段階、その段階で、自分は何をするべきなのかをロジカルに思考する」

ブランドはいきなり大きくなるものではなく、成長には段階があります。Sacai の事例では、小さく始め、販路を広げ、海外での評価を得たうえでデザインを転換していく過程が紹介されました。自分で道筋を描くことはもちろん、それを考えられる仲間を見つけることも重要だと語られました。

⑤ デザインだけでなく、ビジネスを回す視点を持つ

「服のデザイン以外に、どうビジネスを回していくのかという考え方を持てるか」

SETCHU は、受賞によって得た資金や生産背景を品質向上へつなげ、ショーや香水、協業など次の施策へ展開してきました。クリエイションを根幹に据えながら、資金をどこへ投じ、どのように回収し、次の成長へつなげるのか。ブランド全体をロジカルに設計する力が、世界で継続するための条件として示されました。

⑥ 見たいのは、見たことのないスタンダード

「見たことのないありふれたもの」

ありふれたアイテムの延長にありながら、これまで見たことのない発想を感じさせる服には、リアリティと新しさが共存します。ただのスタンダードでも、奇抜だけでもない、自分ならではの新しいバランスを探ること。小笠原氏は、答えのない問いと向き合いながら新しさを追求するデザイナーを応援したいと語りました。

■ 参加者からのコメント

・どの先輩デザイナー、プレス、バイヤーさんからも同じで 10 年、20 年とブランドをやれている方々は上がった時も落ち込んだ時も周りを大切にする人間性が、その人自身を助けるとよく聞いていましたが、ナカさんもそう仰っていたので、良かったです。

・すごく面白かったです。今のファッションのトレンドブランドの、ほぼ原点をリアルに見てきた人であり、成長も含めて体験してきた小笠原さんのお話は宝物のようで、すごくキラキラしていました。その瞬間に立ち会ってきたことを心から羨ましいと思いましたし、悔しいからこそ頑張らなくてはと奮起もできました。

・小笠原先生の長年にわたるファッションジャーナリストにしか出来ない経験談は大変興味深く、また参考になるお話が伺えたと思います。

・デザイナーとして必要な、人を惹きつける力や人間力といった土台の大切さ。そして、まだ誰も見たことのない新しいスタンダードを生み出すこと、ものが溢れる時代でも埋もれない新しさをつくるという考え方が、とても心に響きました。私もそんなものづくりができるよう、これからも頑張りたいです。

・小さくブランドを始めて独立までいけたのだが、ブランドとして方向性が合ってるのか試行錯誤していたが、先人たちの話が聞けて改めて見直す機会になりました。

・世界で一番尊敬しているデザイナーがドリスでした。そのドリスの言葉で見たことのないありふれた服という言葉聞いてすごく心に刺さりました。

・小笠原氏は人たらし!!(人を巻き込む力)チャーミング、、!!!!ありがとうございました。

・なにがそもあれ、服に魅力があることがブランドの核に繋がると感じました。

・これまででは、自分の世界観をつくることばかりに意識が向いていて、他のデザイナーのことにはあまり興味を持てませんでした。でも今回、さまざまなデザイナーの経歴や考え方を知ること、自分のものづくりに落とし込めることがたくさんあるのではないかと初めて感じました。これからは、もっと多くのデザイナーを知り、リサーチを深めながら、自分自身の表現にも活かしていきたいと思います。

・当たり前ですが、お二人の知識量の凄さに脱帽です。トークバトルを見ているようで、熱中してしまいました。その中で、正直私にとって雲の上の存在であるエディスリマンやラブシモンズのファーストコレクションのマインドやブランディング、切り開いてきた世界観の強さの話や、それと対比するように新進に活躍されているサカイやセツチュウなどのデザインの構築の技。経験を糧に変える技術力。そしてどちらにも共通するであろう、人柄。ドリスのデザインコンセプトという「見たことのないありふれたもの」という言葉も刺さりました。この言葉は、初回のナカさんのデザインをするにあたっての「ユニークさ」とは何かというお話とも通ずるなと思いました。見たことがないだけでは知らない怖いと流してしまう。でも、知っているのに知らないものは、なんだろう、何が違うんだろうと興味を抱く。一見手が届かないと思ってあきらめてしまうことでも、目線を変えたり、誰かを巻き込んだりすることで、いつか手が届くかもしれないし、届かなくなっても昇華することはできる。何かを成し遂げてステップを登っていくためには、クリアなビジョンを構築すること、核が必要だということも含めたくさん学ばせていただきました。精進します。ありがとうございました。

